

PFI事業の資金調達について

2007年8月24日

野村証券株式会社
プロジェクト・ファイナンス室

1. 流動化・証券化を前提とした資金調達について

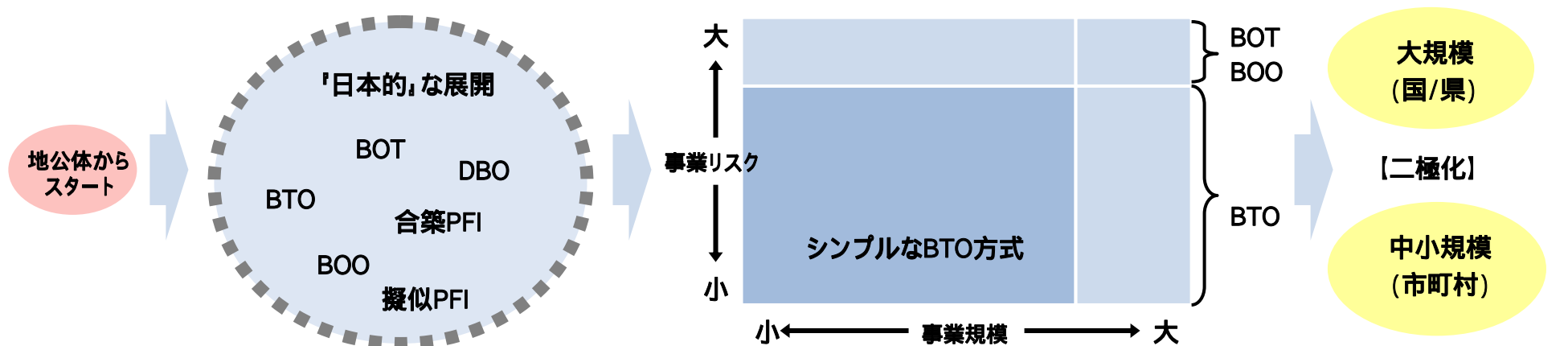
PFIの発展・現状・今後

【民間でできることは民間に・・・】

民間合築 / PPP / 指定管理者制度 / 市場化テスト /
PFI的手法 / 国有財産法の改訂(処分加速) 等

PFI法

PFI法改訂



【新たな取組み】

試行錯誤
関係者の負荷大
・国/地公体
・PFI事業者
・金融機関

【PFIは280件超】

経験値の積上げ
枠組み固定化要望大
7月末現在、284件

【一定程度できあがった枠組みのレベルアップ】

の特徴：
全国に分散 / 多件数 / 中小規模 /
シンプルな構造 / 枠組の標準化

流動化を前提とした資金調達標準化の試み

【二極化への対応】

への対応：
全国に分散 / 中小規模
/ 費用対効果

への対応：
大規模

PFIファイナンスへの「流動化コンセプト」導入

1) PFIファイナンスについての問題意識

PFI事業(BTO方式)の特徴: シンプルな構造 事業の枠組み標準化 全国的な展開

キャッシュフロー: 公共体のクレジットに近い / 均質 / 分散

無理なレート競争が生じており、金融機関への期待と対価が不一致

PFI参加者(金融機関/公共体/事業者)の問題として将来の膨大な資金需要への継続的な対応に懸念

2) PFIファイナンス流動化(PFIローン / 信託受益権)の期待効果

- 流動化を前提とした仕組みを構築し、標準化を進めることにより参加金融機関層の裾野が拡大
- 参加金融機関が多様化し、資金調達の安定性、低コスト化、長期化の可能性が高まり、公共の財政負担の軽減に貢献する。

流動化を前提としたPFIローンの事例

野村証券株式会社は、大林組を代表企業とするコンソーシアムが落札した九州大学(馬出)総合研究棟改修(旧医学部基礎A棟)施設整備等事業の資金調達に関し、国立大学法人九州大学の協力を得て、九州の福岡銀行、大分銀行、十八銀行及び明治安田生命保険相互会社と共に、**流動化を前提とするPFIローン(次世代PFIローン)の共同開発を行った。**

この共同開発は、同社が、これまでのPFIファイナンスにおいて、PFIの格付取得、種類株式の活用など様々な新しいアプローチにより実施した総額約600億円のPFIローンアレンジメントを通じて得たノウハウによるものである。

更に、今回の次世代PFIローンは、実際に流動化を行うことができる仕組みと契約構造を有しており、野村信託銀行から本PFI事業のSPCへの次世代PFIローンを上記金融機関及び福岡ひびき信用金庫へ譲渡することにより、**本邦において初めてPFIローンの流動化を実施した。**

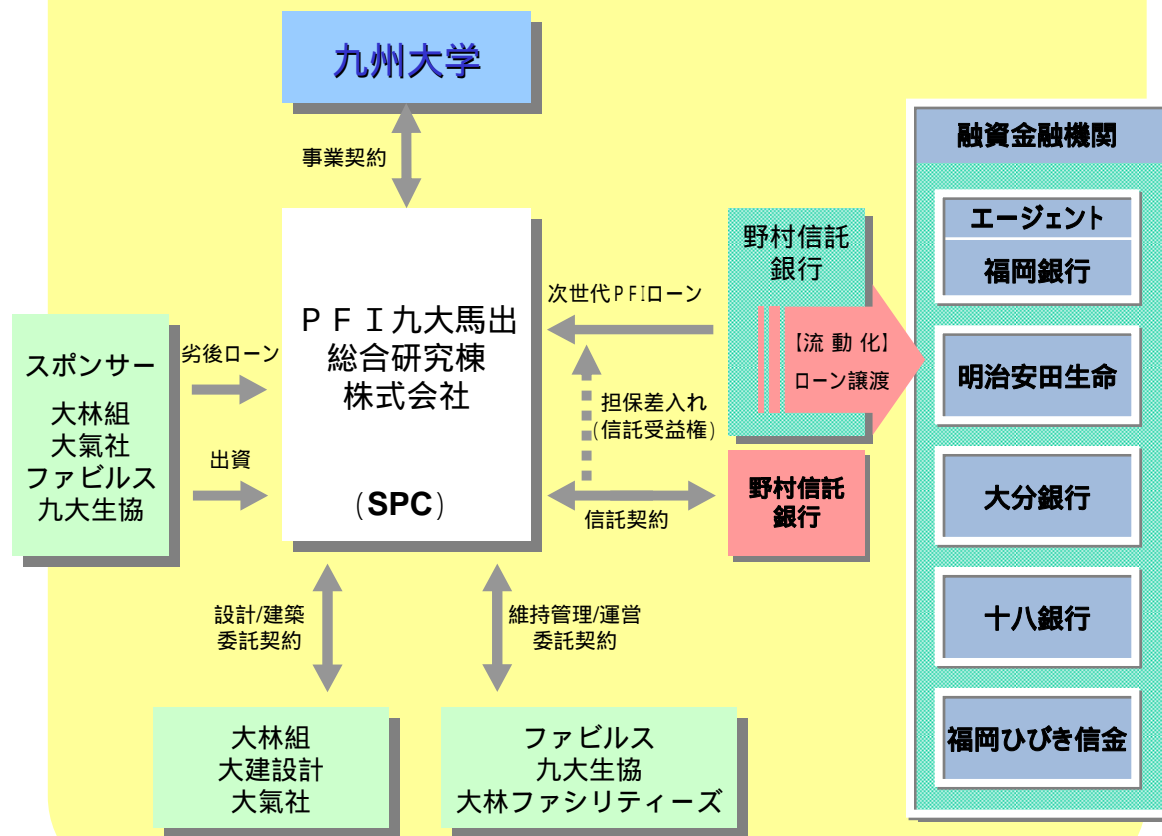
(中略)

【資金調達概要(億円未満切捨て)】

総融資額	30億円
融資金融機関及び融資額	
明治安田生命保険相互会社	10億円
福岡銀行	5億円
大分銀行	5億円
十八銀行	5億円
福岡ひびき信用金庫	5億円
エージェント銀行：福岡銀行	

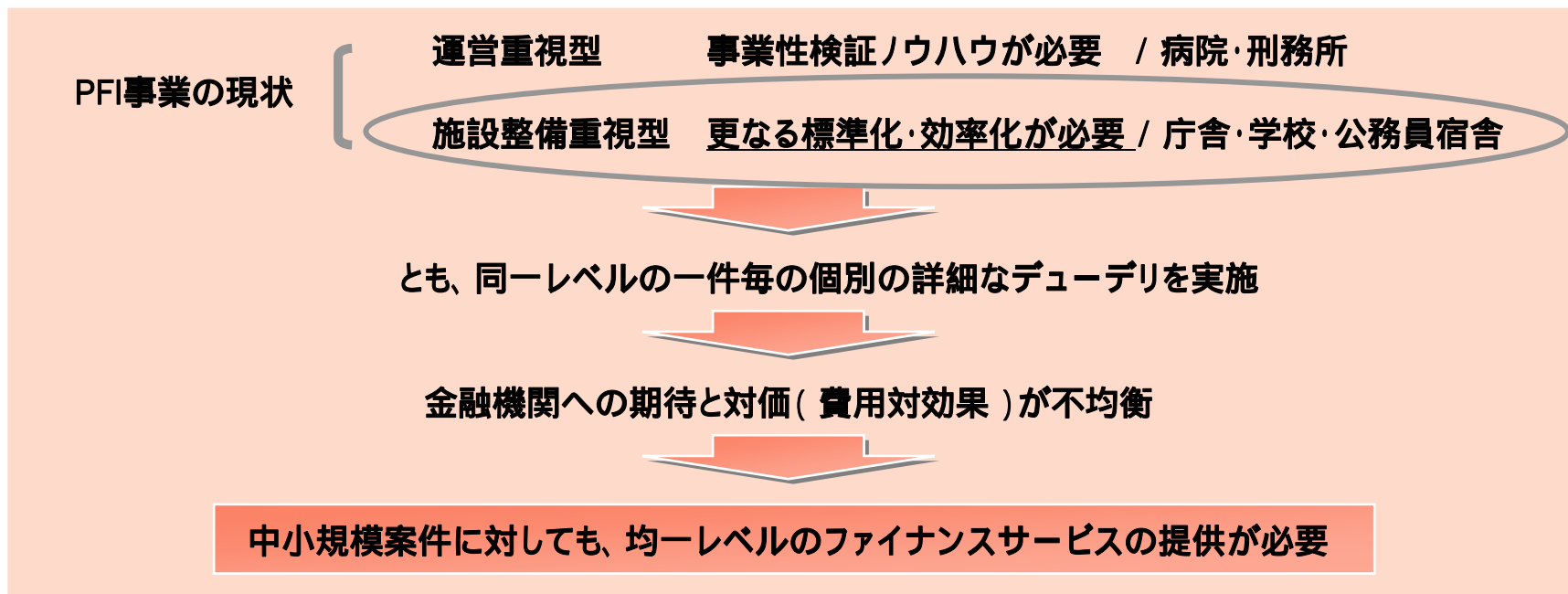
2005年11月18日野村証券プレスリリースより

【スキーム図】



現行BTO方式におけるPFIファイナンスへの評価

1) PFIファイナンスについての現状



2) BTO方式(ハコ物)に関するPFIファイナンスの考え方の一例

- 中小規模のBTO案件を束ねた証券化の仕組みづくり。
- ⇒ 中小規模案件に対する資金調達の効率化、低コスト化の検討
- ⇒ 参加金融機関層の裾野が拡大
- ⇒ 市町村レベルでのPFI事業の活性化の期待

2. PFIローンの格付について

格付けを取得した病院PFIの事例

当社は、国内初のBOT方式の病院PFI事業である「近江八幡市民病院整備運営事業」(以下「本事業」)において株式会社大林組100%出資によるPFI近江八幡株式会社(以下「PFI事業会社」)のファイナンシャル・アドバイザーとして、総事業費約680億円のうち、施設整備等及び総合医療情報システム、医療機器等に係る約141億円のノン・リコース・ローン(以下「本件ローン」)を取りまとめました。本件ローンは、BOT方式のPFI事業として、国内で初めて格付を取得しております。

本事業は、滋賀県近江八幡市がPFI法に基づいて実施するものであり、「近江八幡市民病院整備運営事業に関する事業契約書」に基づき、近江八幡市とPFI事業会社が新近江八幡市民病院の建設、病院施設の維持管理・運営等を行います。新病院は約400床規模で、2004年10月1日に着工しており2006年秋の開院を予定しております。

本件ローンは、32年間という超長期にわたりますが、ストラクチャー上の手当て、PFI事業会社の信用力及び事業遂行能力、近江八幡市の信用力等が総合的に評価されて、株式会社格付投資情報センターよりA格を取得しております。

本件ローンは、デプファ銀行(約75億円、ドキュメンテーション・エージェント)、株式会社滋賀銀行(約35億円、エージェント)、大同生命保険株式会社(約30億円)により組成されております。

2004年12月27日 野村證券プレスリリースより

【スキーム図】

